

### 派遣前



### 派遣中



### 派遣後



#### 〔現状・課題〕

- ・教育委員会からの推薦数減(教育委員会としての推薦メリットが少ない)
- ・平成19年度から退職教師を派遣する「シニア枠」を創設(平成29年度は229名/1,255名)
- ・平成29年度応募から「姉妹都市交流枠」を創設

#### 〔現状・課題〕

- ・派遣中の教師評価の改善(平成29年度から評価指標の細分化(3→5段階評価)等の様式改訂)
- ・平成29年度から特色あるプログラムを開発する「高度グローバル人材育成拠点事業」開始

#### 〔現状・課題〕

- ・帰国教師を面接選考試験官や研修講師、巡回指導員等として活用
- ・都道府県毎に企画される帰国教師報告会や国際理解教育研修などの講師として活躍
- ・帰国後の人事配置や評価への活用不十分

### 戦略的な人材確保・人事配置

- ✓ 小学校教師の英語力強化を目的とした優先配置(補習校と日本人学校への若手教師併任派遣)
- ✓ 外国人児童生徒等の増への対応強化を目的とした優先配置(ポルトガル、中国、フィリピン等)
- 特色ある在外教育施設への配置を自治体等が希望できる公募制度の創設
- 国内講師や現地学校採用教師などの教師予備軍を派遣する「プレ枠」の創設
- 教育実習先として日本人学校への受入れを可能とする制度の創設



### 戦略的なグローバル教育活動

- ✓ 評価制度の改善により、帰国後の評価にも活用されるよう一層の周知
- ✓ 「高度グローバル人材育成拠点事業」※の積極的発信

※「高度グローバル人材育成拠点事業」  
～平成29年度取組～【海外子女教育振興財団委託】

- ・小学校英語教育プログラム開発(香港日)
- ・日本語教育プログラムの開発(台北日)
- ・学校採用教師指導力向上プログラム開発(上海日)
- ・補習校日本語能力向上総合プログラム開発(ダラス補)
- ・日本文化発信拠点プログラム開発(西大和、アスンシオン)



### 戦略的な帰国教師の活用促進

- ✓ 帰国教師を対象としたレセプションを開催(2017/8/25)
- ✓ 本プロジェクトの広報・普及を目的とした文部科学大臣からのアンバサダー委嘱(室伏広治氏、高嶋ちさ子氏)
- 帰国教師を積極的に活用するためのネットワーク構築
- 優秀な帰国教師の表彰を実施
- 教育実践事例や人的リソースにスポットを当てることを目的として「帰国教師フォーラム」を開催
- 若手教師育成のための関連セミナーの開設を検討



- ✓ H29年度中に導入
- H30年度以降に取組予定